

令和3年度 山形県立荒砥高等学校 学校評価書

自己評価 達成度 5:きわめて達成度が高い、4:概ね達成できた、3:できた、できないが半々くらい、2:達成できないことが多い、1:ほとんど達成できなかった						次年度に向けて				
重点目標		具 体 的 目 標		達成指標や方策など		達 成 状 況		達成度		
I「信頼され、前進する荒高生」の育成	I 実践目標の重点的な取り組み		・月ごとに、重点実践目標を掲げ、より具体的に実践すべき事項を明確にしながら目標達成を図る。 ・学期ごと振り返りの機会を設け、生徒が主体的に目標達成できるようにする。		△重点実践目標の確認はなされているが、月ごとの重点目標を周知徹底し、振り返りまでは至らなかった。 △月ごとの具体的目標の掲示がみられなかったが、学期末に振り返りの機会を設け、次の学期に生かせるようにした。 ○学期ごとに生徒が振り返る時間を設け、自己評価をすることができた。そこからまた新たな目標を掲げることができた。		4.0		・月ごとの重点目標を意識する手立て（教員も生徒も）と振り返りの機会が必要ではないか。 ・月の目標の提示を心がけ、学期最後HRの中に振り返りの時間を設定する。	
	(1) 相手の立場に立ち、思いやりのある心で行動する。		・いじめや体罰のない学校づくりのために、年3回の実態調査を実施し、適時の指導に努める。 ・悩みや問題を一人で抱えることのないように、面談を適宜実施し、相談しやすい環境づくりに努める。		○現在2回の調査を終えている。また、全校集会時に「いじめ防止」について呼びかけている。 △SNSの使い方や「悪口」などの問題が発生したことは残念だったが、その度に面談等を通して現状把握に努め、年次集会を開催して携帯の使い方や人間関係の大切さを訴え生徒自身に考えてもらった。 ○生徒保健委員会を中心にあったかハートプロジェクト・クリスマスエール・モント思いやりを行動化する取組を展開した。 ○Cとの連携も含めて、適切に丁寧に対応している。相談体制も整備されている。		4.4		・SNSにおけるトラブルを防止するため、家庭と学校が連携して情報モラルの育成や情報リテラシーの教育の充実が求められる。 ・いじめ発見については、様々な窓口が利用できるようにしていく。	
	(2) 元気なあいさつで、明るい学校にする。		・生徒会が中心になって服装やマナー遵守を呼びかけ、違反0を目指す。 ・校外においても元気な声であいさつできるように呼びかける。		○生活委員を中心とし、生徒主体の活動ができている。服装や頭髮等の違反者はほぼゼロであり、全体が落ち着いた身だしなみで挨拶も良好ある。そして遅刻者が減少している。 ○登下校や授業前後の挨拶について一貫して指導を行うことができた。		4.3			
	(3) 服装を整え、時間を守って行動する。		・月ごとの服装・身だしなみ点検の日のみならず、毎授業の指導を徹底し、全職員で対応する。		○毎月の身だしなみ点検、生活委員も積極的に取り組んでいる。 △一学期の朝学習には立ち歩くなど時間を守れない生徒も数名いたが、折に触れて注意を促し、時間厳守を徹底させた。		4.5			
	(4) 授業を第一に、課題は100%提出する。		・全年次とも朝学習を定着させて基礎学力を養い、授業に向かう姿勢を高める。また、教科・年次で連携し、課題提出100%を達成させる。		○全体として、落ち着いた授業態度であり、授業に向かう姿勢も概ね良好。それが3年生の進路実績にも現れている（特に進学実績）。 ○朝学習にはしっかり取り組めた。 ○課題提出も概ね良好で、未提出者には期限内とはいかないまでも、教科担当者と担任が連携して課題提出を徹底させることができた。		4.3		・観点別評価の充実に向け、より効果的な課題内容を検討していくと同時に、課題への取組み状況をしっかりと評価していくシステムづくりをしていく。	
	(5) 資格取得に挑戦し、年1資格以上取得する。		・漢字検定準2級・3級16名以上、英検準2級・3級4名以上、数検準2級・3級10名以上、ビジネス文書実務検定・情報処理検定の1・2級5名以上、介護職員初任者研修受講希望者全員合格、救急法救急員講習受講者全員の合格を目指す。		△今年度もコロナ禍にあって、介護職員初任者研修や救急法救急員については実施できなかった。 △英語検定準2級2名・3級1名、ビジネス文書実務検定2級4名・3級7名、同速度部門3級6名、情報処理検定2級3名・3級2名が合格し、目標まであと一歩であった。その他にも、食物調理技術検定3級3名、保育技術検定（音楽・リズム表現技術）3級9名が合格したが、世界遺産検定0名であった。 △新型コロナの影響で中止されて資格取得に挑戦する機会が減っている現状はあるものの、検定を受験する生徒自体が減っている。また一部検定料が高額であり、敬遠される傾向にある。		3.3		・検定に挑戦することで自己研鑽に繋がることを理解させる。 ・現在好調な就職求人が、コロナによって状況が一変するか分からない不安定な情勢であることを理解させ、将来の進路に備える意識の醸成が必要である。	
	(6) 全校生徒一致団結し、生徒会行事を成功させる。		・生徒会執行部を中心に企画・運営を行い、生徒一人ひとりが主役となり、達成感を持てる行事づくりを行う。 ・生徒が前面に立ち、創立80周年に向けて本校の更なる変容と飛躍を目指す。		○生徒会執行部が主体的に活動できており、学校の核となっている。また、学級減に伴い、生徒会組織の再編成が進められた。 ○体育祭、荒高祭、クラスマッチともにコロナ対応しながら実施できた。 ○生徒会執行部を中心に、生徒が主体となって企画や運営を行い、新しい生活様式のもとで新しい行事が作れた。		4.6		・今後も感染状況に応じた対策をしていく。 ・2年次生に学校をリードする気持ちを涵養していきたい。	
	(7) 部活動等に積極的に取り組み、部の目標を達成する。		・運動部:短期目標、長期目標を掲げ、日々の活動の充実を図る。 日常の部活動参加率100%を目指す。 ・文化部:総合文化部囲碁班の全国大会を目指す。吹奏楽部の大会出場・演奏会の成功、総合文化部美術班の作品出品の充実を図る。		○生徒数減少により、難しい部分はありながらも、運動部、文化部ともに充実した活動となっている。部活動所属者は100%であったが、日常の部活動参加率100%を目指す指導はなかなか厳しかった。 ○囲碁班女子全国大会出場（全国高総文祭和歌山大会、なお、全国高校囲碁大会には県として不参加だった） ○吹奏楽部の定期演奏会には521名の観客動員を得て成功させることができた。 △運動部員の人数が少なくなり活動の活性化が課題である。また、年度後半以降、部活動参加率が低下しているように感じられる。		4.2		・生徒数の減少に伴い、今後さらに部活動の再編が必要である。 ・活動状況や結果情報を報告し、部や生徒の頑張りを紹介していく。特に校内賞状伝達式を大切にしたい。 ・コロナ禍の中での活動、少人数部員での活動、地域で活動する部活動について検討が必要である。	
	(8) 図書館を利用し、月1冊以上読書する。		・図書館報の発行と読書強調週間の実施で、生徒が読書に親しむよう工夫し、一人月1冊以上の図書貸し出しを目指す。 ・各授業での図書館利用を推進する。		○読書強調週間を実施できた。20分の時間を確保し、集中して読書ができる環境を整えた。また、クラス単位の読書活動をホームルーム計画に位置づけ、実施したことにより、本を手取るきっかけとなっている。また心の安定にもつながっている。 ○国語科、社会科、理科、英語科、商業科等、授業での調べ学習等で図書館を活用した。それにより、昼休みに読書をしに図書館を利用する生徒が多く見受けられた。 ○図書館利用促進のため、図書委員会が工夫を凝らしたイベントを企画、実施した。		2.8		・継続的な読書活動になるような仕掛けづくり。 ・「活字」に触れる機会を多く設けたい。	
	(9) 隅々まで丁寧に清掃し、日本一きれいな学校にする。		・一斉清掃において、一人ひとりの役割を明確にすることで意欲の向上と清掃の徹底を図る。 ・校内外の環境の美化活動を、自主的なボランティア活動の推進により拡大する。 ・学校の環境整備・美化の実践を通して、学校施設を愛護する「母校愛」を育む。		○生徒が主体的に校内の清掃活動を行っている。 ○清掃自体ははじめに一生懸命だが、生徒数の減少、教員数の減少により、カバーできない箇所が生じてきている。 ○年次行事の中で学校周辺の落ち葉掃きを実施。黙々と自分の担当区域の清掃に励んでいる様子が見られた。		4.6		・週ごと、月ごとに重点化したり、縦割りの班を検討したりするなど、何かしらの対策が必要。 ・少人数で校内美化を継続するための工夫が必要（隔日、人数割りなど）。	
	(10) 自らボランティア活動に年2回以上参加する。		・地域の諸活動に積極的に参加し地域貢献に努める。（年次ボランティアの他にも自主的に1回以上のボランティアに参加する。） ・生徒会主体でボランティアの企画・参加者募集に取り組む。		△コロナ禍の状況の中で、ボランティア活動自体が難しかった。 ○紅花摘み、除雪ボランティア、「あらとのヒカリ」などが実施できた。他のボランティアは、ほぼ自粛、未実施であった。 △ボランティアに参加する生徒が増えてきたが、もっと多くの生徒に関心を持ってもらいたい。		3.3			
	II 生徒会スローガン達成の支援		・「虹架夢進～夢に進め荒虹生～」のスローガンのもと、生徒会活動を活発化し、生徒主体の学校づくりを目指す。 ・生徒会役員の研修会を実施し、企画力や運営力を高める。		○執行部、各委員会ともに互いに協力的な活動とすることができた。 △生徒の主体性を生かした活動が少なく、あらかじめ教員が方向性を決めてしまうことが多かった。この社会情勢下、できる範囲での取り組みは相応になされたと考えられる。		4.0		・生徒会執行部会を定期的に開催し、生徒たちが話をする機会を増やす。	

自 己 評 価　達成度　5:きわめて達成度が高い、4:概ね達成できた、3:できた、できないが半々くらい、2:達成できないことの方が多い、1:ほとんど達成できなかった						次年度に向けて
重点目標		具 体 的 目 標	達成指標や方策など	達 成 状 況	達成度	
2	魅力ある学校の創造	① 教育課程の具現化とキャンパス制の円滑な運営を行う。	①「産業社会と人間」の実施内容の工夫と記録により次年度以降に向けての改善を図る。 ②教育課程の円滑、かつ効果的な運用を目指し、各種整備に努めるとともに、総合学科の特徴的な学習内容等を、様々な機会を利用し積極的に外に向かってPRする。 ③系列の特徴を生かし、生徒個々の進路目標の実現を具現化する。 ④日常の活動をキャンパス制の視点で見直し、互いのメリットとなるよう積極的な活用を行う。	○令和4年度から実施される新学習指導要領に対応した教育課程を編成した。また、観点別評価の充実にに向けた研修会を2回実施し、本校としての方向性を決め、学校全体で共通理解を図った。 ○高校魅力化とR5年度に向けて年間計画の見直し、R4年度計画を町と町商工会等と連絡調整しながら進めている。 ○今年度は年次毎学習成果発表会を開催、外部関係者を招待することはできなかったが、報告書を送付することでキャリアデザインの授業を本校のPRIに活用できた。 ○1日地域巡検では上級学校や地元の企業を見学した。また多くの外部講師を招いて地域や職業に関わる内容の講演を実施した。そのことは生徒自身が自分の住む地域の良さを見直し、また自分の進路を考える上で貴重な学習体験となった。 ○生徒が希望する事業所にひとりずつ配置し、就業体験活動を実施し、職業観を醸成することができた。	4.3	・地域との連携という視点で教育課程を編成していく。 ・高校魅力化に繋がるR5年度の年間計画の作成と環境整備 ・ZoomやYouTubeなどを活用した発表会の研究、予算の確保
		② 「主体的・対話的で深い学び」と「ユニバーサルデザイン化」された授業を行う。	①各授業において、学習のユニバーサルデザイン化を推進し、全ての生徒にとって分かりやすい授業を展開する。 ②校内授業公開週間(年2回)や10月実施の公開授業研究を通して、主体的・対話的な学びを意識した授業方法を研究・実践していく。	○校内授業公開週間を予定どおり実施した。 ○10月の授業公開は、外部参観者を含め実施することができた。また、事後研究では、ICTを活用しながら実施し、充実した授業研究を行うことができた。各教科で、活発な探究活動や発表活動がなされている。 ○クロームブックやプロジェクターを活用した授業改革が進んだ。	4.3	・生徒1人1台PC導入により、ICT機器の効果的な活用方法を研究していく。教員向けICT活用した授業の研修のより一層の充実。
		③ キャリア教育の充実を図り、進路希望を100%達成する。	①「産業社会と人間」、「ライフデザイン」を柱としながら、3年間を通してキャリア形成を行い、生徒の自己理解と進路意識を深めさせる。 ②教科担当者・年次団を中心に、進路意識の高揚と目標維持に努め、資格取得や模擬試験等への挑戦を促す。 ③就職指導の充実を図るとともに、進学希望者への個別指導を計画的に推進し、就職・進学両面のきめ細やかな指導体制を構築し、実績を伸ばす。	○産業社会と人間・総合的な探究の時間で一貫したキャリア学習ができており、キャリア形成の推進は、概ね達成できた。 ○進路意識の高揚、目標維持は概ね達成できた。就職進学ともに希望に応じたきめ細やかな指導を実施した結果、ほとんどの生徒が希望を達成できた(就職16名、進学19名、結果待ち1名)。 ○東日本大震災地を巡った3泊4日の修学旅行実施に関連して、事前調べ学習や事後は防災食と宇宙食との共通を見出したり、芋煮会を実施し外での煮炊き体験をしたりと将来ための防災意識の向上に努めた。	4.1	・キャリア形成型から探究型への脱却に向けて計画実施するための議論を進めていく。 ・年次を中心に早期の進路決定と早期の進路対策が進路達成の肝で在ることを呼びかけ、主体性を持ち進路実現に向けた取り組みを主導する。 ・模擬試験の意義を検討
		④ 生徒の活力みちた学校行事、部活動とする。	①生徒会執行部を中心に企画・運営を行い、生徒一人ひとりが主役となり、達成感を持てる行事づくりを行う。 ②荒高部活動スローガンCCC(トリプルC)「挑戦・仲間・継続」を各部署で具体的に推進し、部活動満足度90%以上を目指す。また、日常の部活動参加率100%を目指す。	○コロナ禍の中でも、工夫しながら行事を行えた。 ○体育祭、荒高祭、クラスマッチなど、様々な制限を設けながらも、生徒の満足度の高い行事を作り上げることができた。	3.8	・創意工夫を加えて企画していきたい。
		⑤ 生徒の多様化に対する個に応じた指導を行う。	①具体的な個別支援の方法の研修会を実施する。 ②二者面談年2回、3年次では二者面談および三者面談(必要に応じて複数回)、MC委員会を毎月1回実施し、生徒の状況を共有し指導に資する。	○充実した支援員の体制により、生徒は安心して学校生活を送っている。 ○通級、生徒理解の研修会を実施し、理解を深めることができた。 ○MC・特支委員会報告は毎月実施し、情報共有できた。 ○年間を通じて面談週間以外でも、2者面談を実施し、生徒の状況を適切に把握することができた。	4.3	・個別支援のためのICT機器活用の方策を探る。 ・生徒理解のために面談を積極的に実施していく。
3	地域と連携した教育の特色ある教育	① 地域貢献活動や地域との交流に積極的に取り組む。	①地域内で多様なボランティア活動を継続し、②生徒会の研修を実施し主体性・企画力を伸ばす。	○生徒保健委員会では県赤十字血液センターの協力のもと、献血啓発動画を作成し、校内外の献血会場で上映した。 ○町の活動やフラワー長井線車両清掃、除雪ボランティアに参加する生徒が増えた。	3.5	
		② 地域企業の就業体験や「学びサポーター」体制を充実させる。	①報償費の確保と実施計画の作成により、「学びサポーター」による授業の実施回数を昨年以上に増やし、総合学科の特徴作りに努める。 ②これまでの伝統を引き継ぎ、就業体験と学校生活とを結びつけた実施計画により、生徒のキャリア形成を効果的に促す。	○就業体験を計画どおり実施することができた。 ○2年次の就業体験学習につながる学習を、産業社会と人間において実施することができた。	4.0	
		③ 特色ある教育活動を推進し、保護者・地域・中学生を中心に積極的に情報を発信する。	①年次便り10号以上発行などを目指し本校生徒の活躍と本校の魅力の積極的な発信を心掛ける。広報紙「いなりだい」の年2回発刊。 ②学校案内やHP、「かわら版」、PRポスター等を工夫し、広報活動を充実させる。 ③生徒を前面に出したPR活動を実施する。	○1日体験入学では、体験授業まで予定どおり実施することができ、中学生や保護者からも良い反応を得ることができた。 ○「魅力化連携協議会」と連携しながら、PR方法を模索できた。特に、地域おこし協力隊員とコラボしたPR動画の作成。 △年次便りの発行を定期的に行い、学校での活動の様子を保護者に示すことが出来た。10号以上の目標達成にはばらつきがあった。 ○日々の様子について、毎日ホームページを更新することにより、定期的閲覧者を増えてきていると感じられる。	4.2	・1日体験入学の参加者が非常に少なかった。参加してもらう手立てを強化していく(町との連携等も含めて)。
4	課題校	定員40名の確保	①生徒を前面に出したPR活動を展開する。 ②中学校への「かわら版」などの広報活動を継続する。 ③マスコミを通した積極的な情報発信に心掛ける。 ④中学生と合同の催事(地域防犯ネットワーク・部活動)の充実を図る。	○1日体験入学や各中学校での進路学習会などで、生徒を前面に出したPR活動を行った。 △マスコミを通した積極的な情報発信ができたが、工夫の余地はまだあると考えられる。 ○高校魅力化コーディネーターの力添えにより各地区コミュニティーセンター・白鷹町、長井市の中学校に、生徒の活動を紹介したポスターを毎月掲示できた。 ○生徒発信の材料を積極的に用いて展開した。	3.5	・山形新聞への広報活動を積極的に依頼する。 ・PRのターゲットを町外の保護者や中学校教員にも広げる

学校関係者評価	
---------	--